

第2章 淀川水系（奈良県域）内河川の現状と課題

第1節 治水の現状と課題

2.1.1 水害の状況

奈良県内の淀川流域では、昭和34年9月の伊勢湾台風による洪水は戦後最大規模の洪水であり、奈良県内の淀川流域においても宇陀川、内牧川等で浸水被害が発生した。



伊勢湾台風（宇陀川）



伊勢湾台風（内牧川）

また、それ以降も流域内の河川では床下・床上浸水等の浸水被害が頻繁に発生している。近年においても、平成3年の台風9号、平成4年の豪雨、平成16年の台風23号および前線、平成19年の豪雨等により浸水被害が発生している。



平成4年8月豪雨による被害状況
町並川（宇陀市榛原地区）

表 2.1.1 主要洪水による奈良県内の淀川流域における被害状況

河川名	年度	異常気象名	床下浸水棟数（件）	床上浸水棟数（件）
宇陀川	昭和46年	台風29号	142	36
	昭和49年	台風8号、豪雨	18	0
	昭和53年	台風3号、豪雨	0	0
	昭和57年	豪雨、台風10号	15	0
	平成3年	台風9号、豪雨	40	3
町並川	昭和61年	豪雨	9	1
	昭和63年	豪雨	20	2
	平成4年	豪雨	32	5
	平成10年	豪雨	1	1
	平成19年	豪雨	1	0
名張川	昭和57年	豪雨、台風10号	4	0
	平成2年	豪雨、台風19号	9	0
	平成6年	台風26号	9	0
青蓮寺川	昭和57年	豪雨、台風10号	1	0
	平成2年	豪雨、台風19号	8	0
笠間川	昭和49年	台風8号、豪雨	12	0
	昭和57年	豪雨、台風10号	0	0
遅瀬川	昭和46年	台風29号	0	0
	平成5年	豪雨	3	3
布目川	平成12年	豪雨	7	9
白砂川	平成4年	豪雨	7	0
山田川	昭和59年	豪雨	4	0
	平成11年	豪雨	家屋浸水無し	家屋浸水無し
	平成16年	台風23号および前線	1	0
天野川	平成12年	豪雨	2	0
穴虫川	平成12年	豪雨	4	0

2.1.2 治水事業の経緯

奈良県内の淀川流域では、洪水被害の防止や軽減、また災害復旧を目的に順次河川改修を進めてきた。

宇陀川では、昭和 34 年伊勢湾台風において大きな被害を受け災害復旧事業を実施した。しかし、黒木川^{くろきがわ}合流点から本郷川^{ほんごうがわ}合流点付近にかけては家屋が連担し、比較的資産が集中している区間にも関わらず河積が小さく、流下能力が不足しているため、昭和 62 年から河道改修を継続的に実施している。

山田川では、流下能力不足による浸水被害の解消及び大規模開発等に伴う流出増に対処するため、昭和 47 年より改修に着手し、これまでに、高山防災調節池及び京都府県境から上流の約 760m 区間において河道改修を完了している。現在、さらに上流の約 1,305m について河道改修を実施している。

町並川では、流域が古くから伊勢街道の宿場町として栄え、現在も川沿いには家屋が連担するなど、比較的資産が集中していることから、流下能力不足による浸水被害の軽減や解消のために、適宜、河道改修を実施してきた。また、平成 12 年度には、上流の開発に伴う流出増に対処するため、当時の榛原町が国道 165 号に沿って鳥見台雨水幹線を設置した。現在、現川狭窄部において河積を拡大する局所改修を進めている。

また、その他の支川では、浸水被害実績や流下能力を考慮し、災害復旧や局所的な改良工事を実施してきた。



宇陀川（宇陀市大宇陀区^{いっつ}五津）



山田川 高山防災調節池（生駒市高山町）

2.1.3 治水の現状と課題

奈良県内の淀川流域の河川では、河道の流下能力が不足している箇所があること等により、洪水による浸水被害が発生している。特に、宇陀川、町並川、山田川については、河川改修を早急に行う必要がある。

宇陀川では、河道の流下能力が不足している区間があり、特に、家屋が連担する宇陀市大宇陀区松山地区では、河道断面が小さく、固定堰および本郷川合流により河道水位が上昇する等危険な状況にあるため、洪水流下断面の確保等により治水安全度の向上を図る必要がある。一方で、当該区間の近傍には、歴史的な町並みが残りと、良好な景観や豊かな自然環境を形成していることから、川沿いの土地利用や歴史的な景観、さらに、環境の保全に十分に配慮した上で、河道改修を進める必要がある。

宇陀川の支川である町並川では、近鉄大阪線から上流において、河道断面が小さく、流下能力が不足し、頻繁に浸水被害が発生しているため、浸水被害の軽減・防止に向けた早急な対策が必要である。一方で、浸水が発生する地区は、旧榛原宿であり近世末頃の旅籠屋「あぶらや」と同時期の町並みが残っているため、これらに配慮した対策が必要である。

山田川では、河道断面が小さく、流下能力が不足し浸水被害が発生している。また、山田川流域では、急速に市街化が進んでおり、将来の流域開発に伴う流出量の増加も懸念される。このため、今後、国が実施する道路事業と連携しつつ、高山防災調節池の洪水調節効果と併せて、治水安全度向上を図る必要がある。

また、既設の護岸等の河川管理施設については、設置後長期間が経過しているものが多いため、老朽化による機能低下を防ぐための適切な維持管理が必要である。橋梁等の許可工作物についても、老朽化しているものや河川管理施設等構造令に適合していないものがあるため、治水上支障とならないよう、許可工作物等の管理者に対し適切な維持管理等を行うよう指導する必要がある。

さらに、全国各地で計画目標流量を上回る洪水による浸水被害が発生していること等から、このような洪水による被害を軽減するため、より一層関係機関との連携体制を強化し、水防体制の充実や子どもから大人までの地域住民に対し迅速で分かりやすい情報の提供を行うとともに、防災意識の啓発・高揚を目的とした広報活動や防災教育等を行う必要がある。

第2節 利水の現状と課題

2.2.1 利水の経緯

奈良県内の淀川流域では、大和平野に比べて年平均降水量が多く、水量も豊富であることから、大和平野のかんがい用水や水道用水の確保を図るため、幾度となく宇陀川からの分水計画が持ち上がってきた。このような経緯から、「木津川上流総合開発計画」の一環として、昭和44年から昭和49年にかけて室生ダムを建設し、大和平野への水道用水の供給に加え、宇陀川流域内でのかんがい用水の供給も行っている。

一方、宇陀市大宇陀区西部の山麓地帯では、古くから溪流からの不安定な水供給に依存した水稲栽培を行ってきたことから、安定したかんがい用水や大宇陀南部地域の水道用水の確保を目的に、平成4年から平成9年にかけて宮奥ダムを建設した。また、大和高原山間地の水田に対してもかんがい用水の安定供給を図るため、「国営総合農地開発事業大和高原北部地区」の基幹施設として、平成5年から平成9年にかけて上津ダムを建設し、かんがい用水や水道用水を供給している。

2.2.2 利水の現状と課題

奈良県内の淀川流域の水利用は、水利権上で水道用水が約4.3m³/s、かんがい用水が約1.6m³/sである。加えて、発電用水として約1.9m³/sを取水し、布目川発電所や室生発電所において、水力発電を行っている。

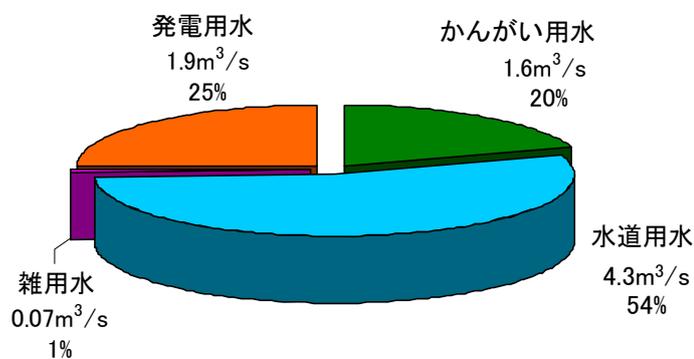


図 2.2.1 水利用の状況

奈良県内の淀川流域の水道用水は、流域内だけでなく、大和平野へも送水されており、大和川流域に住む人々の暮らしを支えている。室生ダムを水源とする水道用水は、宇陀市をはじめ、大和平野の天理市、桜井市、生駒市などの市町村へ送水されている。一方で、比奈知ダム、須川ダムを水源とする水道用水は奈良市へ、布目ダムを水源とする水道用水は奈良市（都祁地区を含む）、山添村へ、上津ダムを水源とする水道用水は奈良市月ヶ瀬・都祁地区、宇陀市室生区、山添村へ送水されている。

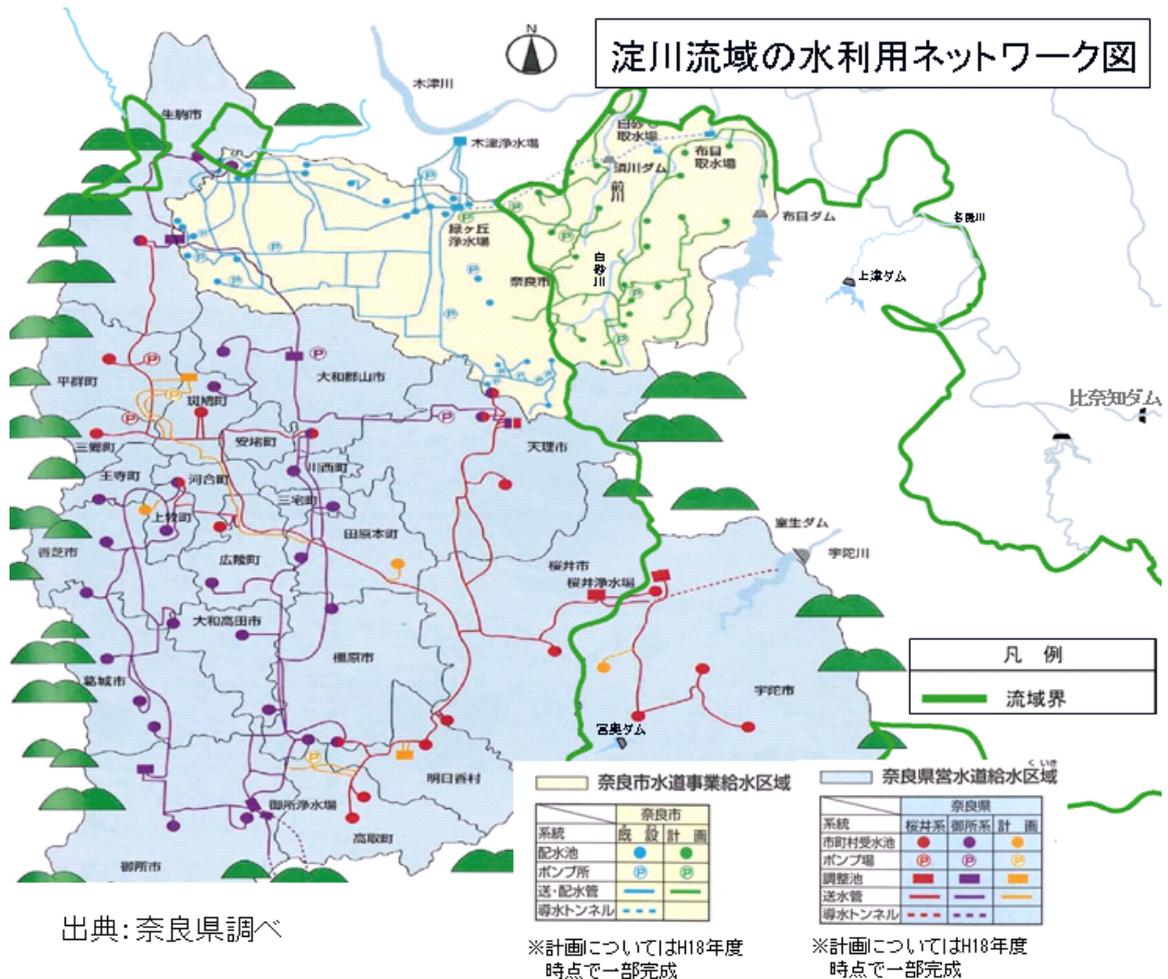


図 2.2.2 淀川流域の水利用ネットワーク図

しかし、室生ダムでは、平成2年、6年、7年、8年、12年、13年、14年、17年と相次いで渇水が発生しており、住民生活や社会経済活動に影響を与えている。

なお、淀川水系河川整備基本方針では、流水の正常な機能を維持するための必要な流量を淀川の高浜地点（大阪府高槻市上牧町内）で、かんがい期に概ね 180m³/s、非かんがい期には概ね 170m³/s と定めている。

第3節 河川環境の現状と課題

2.3.1 水質の現状と課題

奈良県内の淀川流域における水質の環境基準は、宇陀川上流部、芳野川上流部、^{うちまきがわ}内牧川、室生川等が AA 類型 (BOD1.0mg/l 以下) に指定されているのをはじめ、全てが A 類型以上 (BOD2.0mg/l) に指定されている。なお、天野川については大阪府域では、B 類型 (BOD3.0mg/l 以下) に指定されているが、奈良県内では、支川の穴虫川や宮の前川を含め類型指定は行われていない。

水質調査の主要地点における BOD 値は、近年改善傾向にある。A 類型 (BOD2.0mg/l) に指定されている支川では、宇陀川 (高倉橋) を除いて、継続的に環境基準を満足しており、宇陀川 (高倉橋) でも、平成 9 年以降は概ね環境基準を満足している。また、AA 類型 (BOD1.0mg/l 以下) に指定されている宇陀川 (新大東橋) では、環境基準値付近を推移している。一方、天野川流末 (大阪府域) は、改善傾向にあるものの近年においても B 類型 (BOD3.0mg/l 以下) を満足していない。また、宇陀川の市街地部等では水質の悪い状況が見受けられることから、さらなる改善を図る必要がある。

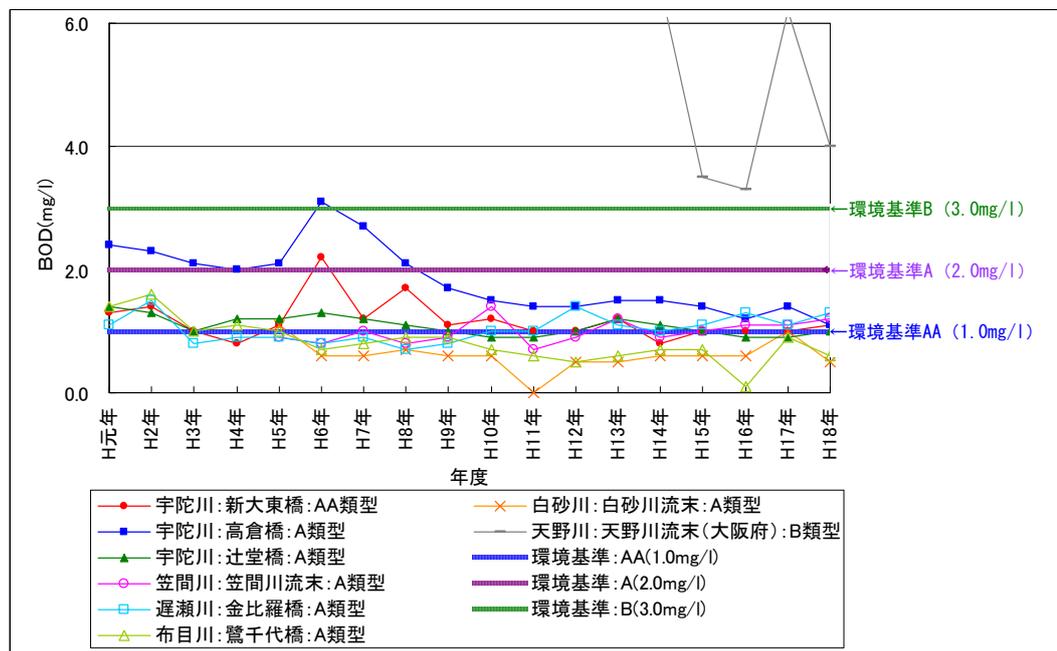


図 2.3.1 水質調査の主要地点における BOD 値の推移

室生ダムでは、近年、水質障害の発生状況が長期化する傾向にあり、淡水赤潮やアオコの発生が見られる。淡水赤潮は、平成 16 年以降は確認されていないものの、アオコは、平成 12 年度以降、年間 100 日を越える発生が続いている。一方、室生ダムの上下流地点における水質はともに、A 類型 (BOD2.0mg/l) を満足している。

布目ダムでは、アオコは平成 16 年以降発生していないものの、淡水赤潮は平成 15 年以降に顕著に出現している。一方、布目ダムの下流地点における水質は A 類型 (BOD2.0mg/l)

を満足している。

一方、油や有害物質の河川への流出事故（水質事故）が発生した場合、迅速な対応が必要なため、「淀川水質汚濁防止連絡協議会」による情報の収集・提供、被害軽減対策等、関係機関が連携を図りつつ、水質事故への対応を実施している。

2.3.2 動植物の生息・生育・繁殖環境及び生態系の現状と課題

奈良県内の淀川流域の河川では、その豊かな自然環境を反映し、様々な動植物の生息・生育・繁殖が確認されており、概ね良好な生態系が維持されている。その一方で、宇陀川や山田川等では、固定堰や落差工の設置により河床及び流水の連続性を絶ち、魚類等の遡上・降下の障害になっていることや、町並川等の市街地部の河川においてはコンクリートの三面張り等の人工的な河川の様相を呈している。また、外来種も確認されていることを踏まえ、今後、定期的な環境調査による自然環境の状況の把握に努め、河川工事の実施に当たっては、より一層、動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮する必要がある。

奈良県内の淀川流域においては、植生は、上流域の山地にスギ・ヒノキ・サワラ植林等が広がり、クヌギ-コナラ群集、モチツツジ-アカマツ群集が点在して生育していることが報告されている。河川では、ツルヨシ群落、オギ群落、竹林、ヤナギ低木群落等の生育が多く報告されている。

魚類は、アユ、カワムツ、カワヨシノボリ等の生息が報告されている。

哺乳類は、イノシシ、キツネ、タヌキ等が県域内に広く生息していることが報告されており、室生山地を中心にニホンザルやニホンジカ等が生息していることが報告されている。

鳥類では、カワウやアオサギ、ヒヨドリ等の生息が報告されている。

昆虫類では、白砂川や打滝川等にギフチョウやハッチョウトンボ等が、宇陀川や室生川、青蓮寺川、名張川等には、ギフチョウ、ゲンジボタル、タガメ等の生息が報告されている。

爬虫類・両生類では、主に名張川や青蓮寺川、室生川の上流域の清流にモリアオガエルやヒダサンショウウオ、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息している。

なお、奈良県内の淀川流域の河川のうち、宇陀川、町並川、山田川の県管理区間における現地調査（平成 20 年度調査）では、以下の動植物を確認している。

【宇陀川】

宇陀川では、植物はシダ植物 46 種、裸子植物 4 種、被子植物 329 種、計 379 種の生育を確認しており、そのうち 5 種が貴重種*であった。低水路部には流れのある場所にも定着できるツルヨシ群落、堰の湛水域等にはマコモ群落やガマ群落等の多様な水辺植生が生育し、高水敷や堤防にはススキ群落、まとまった規模のオギ群落等の在来植生が生育している。このような多様な植生は、魚類、昆虫類、両生類等にとって良



ツルヨシ



カワヨシノボリ



ユミモンヒラタカゲロウ



カジカガエル

宇陀川で生息・生育を確認した主な在来種

好な生息・繁殖地となっている。一方で外来種も多く確認しているが、その中でも在来種の衰退につながるアレチウリやオオカワヂシャ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシ等の生育を確認している。

魚類は3種の貴重種*を含む15種の生息を確認しており、タモロコやドジョウ、カワヨシノボリ等の生息を確認している。

底生動物は、ゲンジボタル等、2種の貴重種*を含む40種の生息を確認しており、タイコウチやシマトビケラ等の他、きれいな水に生息するカゲロウ類を全域で多く確認しており、市街地を流れる中流部ではゲンジボタルの餌になるカワニナ、ヘイケボタルの餌になるサカキガイ等の生息を確認している。一方で外来種として、在来種を駆逐するアメリカザリガニの生息を確認している。

哺乳類では、8種の生息を確認しており、イタチ属やモグラ属等の生息を多く確認している。一方で外来種として、水辺環境を破壊するアライグマ、ヌートリアの生息を確認している。

鳥類では、貴重種*16種を含む46種の生息を確認しており、カルガモ等の他に、夏はツバメ等、冬はアオジ等の生息を確認している。

爬虫類・両生類では、爬虫類4種の貴重種*を含む14種の生息を確認しており、ヌマガエルや溪流を代表するカジカガエルの生息を確認している。一方、外来種として、在来種を駆逐するウシガエルやミシシippiacamimigameの生息も確認している。

陸上昆虫類では、3種の貴重種*を含む82種の生息を確認しており、ハグロトンボ、オニヤンマ、キリギリス等の生息を確認している。

これらの調査結果を踏まえると、宇陀川は、植生が多様であり、まとまった規模の在来植生も生育していることから、良好な生物の生息・繁殖基盤を有する河川である。また、シマトビケラやゲンジボタルの餌になるカワニナ等が生息していることから河床が安定した河川である。さらに、タイコウチ等が生息することから周辺の水田とネットワークが形成された河川である。一部外来種が生息するものの、多様な植生が生育し、水質が良い場所に生息する生物が比較的多いこと、生息種数も多いこと等から、良好な水質と多様な生物相が形成された河川環境である。このため、外来種の対応を模索しつつ、現在の多様な河川植生や地域固有の多様な生物相が形成された河川環境と良好な水質を保全する必要がある。

【町並川】

町並川では、シダ植物13種、被子植物118種、計131種の生育を確認しており、そのうち1種が貴重種*であった。上流ではススキ群落、中流ではクサマオ群落、ヒナタイノコヅチ群落等、下流ではカナムグラ群落等の生育を確認している。ほとんどの区間が三面張りのコンクリートであるため、低水路には下流の宇陀川との合流点付近等によどんだ場所に生育するミゾソバ群落を確認している程度で



ミゾソバ



サワガニ

町並川で生息・生育を確認した主な在来種

ある。上下流を通じて水辺植生は小規模であり、生物の生息、繁殖環境は少ない。典型的な都市河川の様相を呈し、河川植生は乏しい。さらに外来種として、在来種の衰退につながるセイタカアワダチソウ等の生育を確認している。

魚類は、貴重種*1種を含む5種の生息を確認しており、最下流部でオイカワ属やドジョウ、カワヨシノボリ、タウナギ等の生息を確認している。

底生動物は、貴重種*1種を含む16種の生息を確認しており、両岸にミゾソバ群落の植生が見られる最下流部ではコカゲロウや汚濁に強いガガンボ科の一種を多く確認している。中流の市街地では僅かな砂だまりや礫底の箇所ですワガニやカワトンボを確認している。

哺乳類は、水辺環境を破壊する外来種のアライグマのみの生息を確認している。

鳥類は、貴重種*2種を含む11種の生息を確認しており、水辺を好むキセキレイやセグロセキレイの他、夏はツバメ等、冬はツグミ等の生息を確認している。

爬虫類・両生類は、爬虫類1種、両生類1種の合計2種の貴重種*を含む4種の生息を確認しており、トノサマガエルを多く確認している。

陸上昆虫類は、貴重種*1種を含む49種の生息を確認しており、河川内とその周辺には植物が少ないため、確認種は少なく、河川内の抽水植物の上にハグロトンボやシオカラトンボ、オニヤンマ、カンタン等の生息を確認している。

これらの調査結果を踏まえると、町並川は、中流の市街地を中心に、群落の規模は小さく植生に乏しい河川である。一方、幼虫の期間が5年とされるオニヤンマ等が生息していることから河床や流況が安定している河川である。一部外来種が生息し、水質は家庭排水等の影響により少し汚れているが、中流の市街地における三面張りの河道区間を除いて、生息する生物種から概ね良好な水質と河川環境である。このため、外来種の対応を模索しつつ、中流の市街地ではコンクリートの三面張りを避け、生物の縦横断的なネットワークの形成や生物の生息・繁殖基盤となる河川植生の再生など、生物の生息・生育・繁殖環境に配慮するとともに、良好な河川環境を再生する必要がある。

【山田川】

山田川では、植物は、シダ植物12種、裸子植物1種、被子植物126種、計139種の生育を確認しており、そのうち1種が貴重種*であった。水路周辺には流れのある場所にも定着できるツルヨシ群落、ミゾソバ群落等の水辺植生が生育し、護岸にはややまとまった規模のススキ群落等の在来植生が生育している。一方で外来種も多く確認しているが、その中でも在来種の衰退につながるアレチウリやオオカワヂシャ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシ等の生育を確認している。在来植生は比較的多く繁茂しているものの、外来種の侵入が著しく、植生環境は悪化しつつある。



ミゾソバ



ゲンジボタルの幼虫



カワニナ



トノサマガエル

山田川で生息・生育を確認した主な在来種

魚類は、貴重種*2種を含む7種の生息を確認しており、中流から下流にかけてカワムツ、トウヨシノボリ等、最下流部の植生が多く流れが緩やかな地点にドンコ等の生息を多く確認している。

底生動物は、貴重種*1種を含む23種の生息を確認しており、最下流部の流れが緩やかな砂泥底ではゲンジボタルの幼虫や、オニヤンマ等、砂礫底ではゲンジボタルの幼虫の餌になるカワニナ、シマトビケラ等の生息を多く確認している。一方で外来種として、在来種を駆逐するアメリカザリガニ等の生息を確認している。

哺乳類は、4種の生息を確認しており、イタチ属の一種の生息を多く確認している。一方で外来種として、水辺環境を破壊するアライグマの生息を確認している。

鳥類は、貴重種*4種を含む21種の生息を確認しており、モズ、メジロ、水辺を好むキセキレイやセグロセキレイ等の生息を多く確認しており、夏はツバメ等、冬はジョウビタキやアオジ等の生息を確認している。

爬虫類・両生類は、爬虫類1種の貴重種*を含む合計6種の生息を確認しており、ヌマガエルとトノサマガエルの生息を多く確認している。一方、外来種として、在来種を駆逐するウシガエルの生息を確認している。

陸上昆虫類は、31種の生息を確認しており、全域でハグロトンボ、シオカラトンボ、キリギリス等の生息を確認している。

これらの調査結果を踏まえると、山田川は、まとまった規模の群落は少ないものの、上流の三面張りの河道区間を除いて、多くの植生が生育している河川である。また、カワニナ等が生息していることから少し汚れた水であるが、都市河川にも関わらず、ゲンジボタルや幼虫の期間が5年とされるオニヤンマ等の安定した河床に生息する生物種を確認しており、比較的良好な河川環境であるといえる。一方で、他の植物の生長を阻害するアレチウリ等の外来種が生育していることから、河川環境は悪化しつつある。このため、外来種の対応を模索しつつ、コンクリートの三面張りを避け、生物の縦横断的なネットワークの形成など、在来植生の生育環境を保全することで、地域固有の生物の生息・繁殖基盤を確保し、生物の生息・生育・繁殖環境に配慮するとともに、良好な河川環境を保全する必要がある。

宇陀川、町並川、山田川で生息・生育を確認した主な外来種

植物				
				
アレチウリ 宇陀川・山田川	オオカワヂシャ 宇陀川・山田川	オオブタクサ 宇陀川・山田川	セイタカアワダチソウ 宇陀川・町並川・山田川	セイバンモロコシ 宇陀川・山田川
底生動物	哺乳類		爬虫類・両生類	
				
アメリカザリガニ 宇陀川・山田川	アライグマ 宇陀川・町並川・山田川	ヌートリア 宇陀川	ミシシippiaアカミミガメ 宇陀川	ウシガエル 宇陀川・山田川

*表 2.3.1 貴重種選定の根拠とした文献等一覧表

No.	法律または文献名	調査項目							
		鳥類	陸上昆虫類	魚類	両生類	爬虫類	哺乳類	底生動物	植物
1	「文化財保護法」(法律第214号、1950年)	○	○	○	○	○	○	○	○
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(法律第75号、1976年)	○	○	○	○	○	○	○	○
3	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-植物I(維管束植物)-」(環境庁編、2000年7月)								○
4	「改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿2001-」(レッドデータブック近畿研究会、2001年8月)								○
5	「近畿地区・鳥類レッドデータブック」(江崎・和田編著、2002年3月)	○							
6	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-鳥類」(環境庁編、2002年8月)	○							
7	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-昆虫類」(環境省編、2006年8月)		○						
8	「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(環境省、2006年12月)	○			○	○			
9	「大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック-脊椎動物編」(奈良県、2006年3月)	○		○	○	○	○		
10	「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」(環境省、2007年8月)		○	○				○	○
11	「大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック-植物・昆虫編」(奈良県、2008年6月)		○					○	○

2.3.3 景観の現状と課題

奈良県内の淀川流域の河川は、地域特性や歴史や文化と調和した良好な景観を呈しているが、市街地河川においては人工的で単調な景観を呈している箇所も見られるため、今後、護岸等の整備にあたっては、より一層、景観に配慮する必要がある。

木津川・名張川流域では、自然豊かな景観や歴史や文化と調和した景観を呈している河川が多く、青蓮寺川では、川沿いに兜岳・鎧岳・屏風岩などの特異な形状の山々を望むことができ、川と周辺環境が調和した多様で自然豊かな景観を形成している。

また、宇陀川では、宇陀市役所下流部右岸に墨坂神社があり、神社正面に架かる宮橋は、参道を思わせる朱塗りの人道橋として整備が行われており、緑豊かな河道にアクセントを加える景観が形成されている。

一方、天野川・山田川流域では、人工的で単調な景観を呈している河川が多く、天野川や山田川では、河道が交通量の多い国道沿いを併走しているため、河岸は水際に近づきにくいコンクリート護岸が連続している。



青蓮寺川（曾爾村今井）



宇陀川（墨坂神社：宇陀市榛原区）



山田川（生駒市鹿畑町）

2.3.4 河川利用の現状と課題

宇陀川では、桜並木が続き、春には地域住民によってお花見に利用され、河川空間が憩いの場となっている。また、リバーウォッチング等の自然観察会も開催されており、自然と触れ合う場としても親しまれている。宇陀市役所下流の高水敷には、遊具施設が設置されており階段護岸も整備されている。

青蓮寺川は、川沿いの道路の一部が東海自然歩道ルートになっており、ハイキング等の利用者も多く、河川空間や青蓮寺川を含めた周辺の山々の景観を楽しみ、親しまれている。また、室生ダムや布目ダムのダム湖を中心として、ヨットや釣り、キャンプ、スポーツ等住民の憩いの場として利用されている。

また、室生川や宇陀川等では、アユやアマゴが放流され、内水面漁業に利用されている。なお、奈良県内の淀川流域には、室生漁業協同組合、宇陀川漁業協同組合等 9 つの漁業協

同組合がある。

一方、河川敷等の不法占用や河川利用者等によるゴミの不法投棄等も発生しており、適切な対応が必要である。



宇陀川の桜並木
(宇陀市榛原区篠築)



リバーウォッチング
(宇陀市大宇陀区野依)

2.3.5 地域住民との連携の現状と課題

地域住民による清掃活動や、河川管理者と連携した地域住民による多自然川づくりや魚道設置実験など、様々な河川愛護活動が行われている。また、地域住民や小学校、河川管理者が連携し、河川の水生生物観察会や出前講座など、子どもたちを対象とした河川に関する環境学習を実施している。



魚道設置実験 (宇陀川 宇陀市大宇陀区)



出前講座 (宇陀市大宇陀区 野依小学校)